# コロナ禍で幼稚園や保育園の休園による影響で保護者たちが感じる不安についての考察

A Study on the Anxiety Felt by Parents and Guardians Following the Temporary Closure of Kindergartens and Daycare Centers Due to COVID-19

劉　蘊　汀*
Yunting LIU

**要　約**　新型コロナウィルスの世界的な流行と感染対策により，日本では多くの学校や保育施設が休みとなり，多くの子育て家庭は養育について困難を感じる状況となった。本研究では，コロナ禍における子育て家庭が抱いている困難の状況についてについて明らかにすることを目的に，コロナ禍における子育て家庭の生活の変化に関する調査研究について Cinii Research を用いて検索し，検索条件に合致した 4 つの調査研究から，コロナ禍における保護者の不安を分析した。その結果，コロナ禍という危機的な状況は，一般の子育て家庭に多くの影響を与えたが，特に経済基盤等の弱い母子家庭への影響が大きいことが示され，不安を感じている状況が見られた。また，国は経済的な支援をおこなってきたものの，生活や子育てに関する支援については十分ではなかった。特に保育施設等の休園は母子家庭に大きな負担をかけ，不安の要因となったことが明らかになった。

**キーワード**：貧困，家族の健康，子どもの成長，子どもとへの関わり方，精神的ストレス

**Abstract**　The aim of the current study was to ascertain the nature of the difficulties faced by families with small children due to COVID-19. Cinii Research was used to find four studies on the changes to the daily lives of families with small children due to COVID-19 that matched set search criteria, and the anxiety felt by parents and guardians was analyzed. Results indicated that the crisis posed by COVID-19 impacted families with children in many ways and it greatly affected single mothers with a weak financial foundation in particular, resulting in parents and guardians feeling anxious. Moreover, the financial aid provided by the government was insufficient to support families' everyday lives and child care. The closure of child care facilities in particular resulted in a heavy burden being placed on single mothers, which in turn caused anxiety.

**Key words**：Poverty, Family health, Child development, Relationships with children, Mental stress

## I. 問題と目的

人間はこれまでにも様々なウイルスと戦ってきた。世界規模で人間社会を混乱を陥れた最近のウイルスとしては，2019 年 12 月初旬に中国の武漢で第 1 例目の感染者が公式に確認され，2019 年 12 月 31 日に世界保健機関に報告された，新型コロナウイルスが挙げられるだろう。2020 年 1 月 23 日に武漢が封鎖されたの皮切りに，世界各国はこの感染症の対策に追われ，経済的にも大きなダメージを被ることとなった[1]。日本では 2020 年 1 月 16 日に初めての感染者が確認されている。これに伴い，国は 1 月 30 日に「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し

*　家政学研究科児童学専攻
Graduate School of Home Economics,
Division of Child Studies

たが，いずれの対応も十分に功を奏したとは言い難く，初めての感染者が確認されて２年半がたった。2022年10月11日現在までに2,160万人を超える人が感染し，45,667名が亡くなっている[2]。

新型コロナウイルスは，感染したとしても8割は軽症で済むものの 6%は重い肺炎となり死に至る危険があるとされ，また新たに発見されたウイルスであることから当初はワクチンも治療薬も開発されていないこと，非常に感染力が高いと報道されていたことなどによって多くの人がその存在を脅威と感じたであることは想像に難しくない。

特に子育て家庭では大きな影響を受けている。例えば，2020年2月21日に北海道内の小学校で児童2 名の感染が確認され，学校関係者への感染も見られるようになったことから保護者の不安が拡大し，2月25日には文部科学省から全国の都道府県教育委員会に「児童生徒等が感染した場合には学校の臨時休業を速やかに行うこと」という通知が行われた。2月27日には国が全国一律に小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等を3月2日から春休みまで臨時休業とする要請して，全国一斉臨時休業が開始されている。この一斉休業により，家庭での感染症対策や保護者の負担増，学習の遅れや本人や家族が感染した児童へのいじめや偏見など，さまざまな問題が指摘されつつ今日に至る[3]。

学校での一斉休業に準じて幼稚園でも休業日が設定され，保育園も感染拡大防止の観点から閉園しないものの可能な限り登園を極力控えるようにとの要請が各家庭になされたりした。それぞれの自治体の感染状況によって自粛などの影響が多くの子どもたちに外遊びの自粛や友人・遠方の家族の断絶をもたらしたことから，コミュニケーション不足や自然体験の不足などが心配される状況となった。

世界全体が未曾有の事態を経験する中，収入の減少や失業の増加，無償のケア労働負担の増大，家庭内外での暴力やハラスメントの顕在化をはじめとして，女性への影響が深刻であることは，国際的に認識されている。国際連合が 2020 年４月に公表した「新型コロナウイルスの女性への影響」によると，短期及び長期的な対策の実施に際して，社会に存在する不平等を解消するため，明確なジェンダー視点を取り入れることを求めている。コロナ禍におけるジェンダー平等への取り組みは，長年にわたる不平等を是正するということにとどまらず，より公平で強靭な世界を作るということでもあると指摘されている点は重要である。

日本では，ひとり親世帯，特に非正規雇用比率が高いシングルマザー世帯はより深刻な影響を受けた。厚生労働省のデータによると，シングルマザー世帯の就業率は 2018 年時点で 81.8%と高いものの非正規雇用率は 46.5%と高く，世帯年収はふたり親世帯の４割にとどまり，養育費受給率も24%にとどまる。ひとり親世帯の貧困率は 48.2%と高く平時から脆弱性が高いため，コロナ禍では急激に困窮化した[4]。

認定 NPO 法人しんぐるまざず・ふぉーらむが2020年８月から2021年７月まで毎月上旬に行ったパネル調査によると，回答者のシングルマザー当事者に新型コロナウイルスの影響による就労・生活についてこの調査により報告されている[5]。新型コロナウイルス感染拡大以前より，すでに長期に雇用された安定的な働き方ではなく，転職を余儀なくされるような就労環境に置かれていた者が一定数いることが推察される。コロナ禍で就労状況がまた変動して，求職活動も難しくなる。それとともに，就労収入の低位性が子育てや暮らしに影響を及ぼしている。減少された収入額から，家賃を支払い，水光熱費など固定費を支払っていくと，食費や教育費にかけられる費用がいかに限定的になる。学校の長期休暇には食費が増えることから，クリスマスや年越しの費用の捻出に苦慮するという声や，受験を控えたこどもの冬期講習や受験料，子どもの成長で買い替えなければならない冬物衣類は夏物よりも高いといった不安もある。

以上のように，コロナ禍の影響が続く中で，ひとり親家庭の窮状についての発言が増え，児童扶養手当受給者を対象とした現金支給や児童扶養手当の増額について言及されるようになったが，政府としての方針は特別定額給付金や子育て世帯臨時特別給付金，そして緊急小口資金の特例貸付の利用を促すものであった。つまり，ひとり親家庭の根本的な困窮理由を踏まえたコロナ禍の有効な対策は十分に行われていない。これはひとり親家庭において親が抱いている不安が適切に認識されていないことが要因であると考えられる。

こうしたことを踏まえ，本研究ではコロナ禍における母子家庭の母親（本研究ではシングルマザーと称する）が抱いている不安の内容についてについて明らかにすることを目的とする。

## II. 方法

### 1．調査対象

本研究では，コロナ禍における母子家庭を含めた子育て家庭の生活について，調査結果を対象として検討した。論文の選定には Cinii Research を用いた。検索キーワードとして，「コロナ」と下記のワードを組み合わせて検索したところ，「母子家庭」3 件，「ひとり親家庭」19 件，「シングルマザー」20 件，「保護者」180 件であった。そのうち，アンケート調査による研究のみを抽出し，重複するものやコロナ禍の子育て家庭の経済状況や生活状況について指摘していない研究，病状などの医学的な研究を除いた結果，４文献が抽出された（Table 1）。

### 2．分析方法

対象論文の調査結果から明らかになった，コロナ禍における当事者の不安の内容について整理した。調査対象として両親がいる家庭を対象としたものもあるが，子育て家庭が持つ不安について共通する部分があると考え，それらの調査結果から，母子家庭が置かれている状況について検討した。

## Ⅲ．結果

### 1．コロナ禍でシングルマザーの不安の概要

#### 1）シングルマザーの不安の内容

コロナ禍におけるシングルマザーの不安は多岐にわたっていることが明らかになった。これらを KJ 法を参考に整理したところ，６つに分類された。「貧困に陥る」,「家族の健康」,「子どもの成長」,「日頃の関わり方」,「子どもの学習能力」,「子どもの精神的ストレス」である。（Table 2）

**Table 1**　Items studied

| No | 著者名（発行年） | 対象 | コロナ禍におけるシングルマザーの不安 |
|---|---|---|---|
| 1 | 亀田佐知子 2020 | 学童期の子どもをもつ保護者 319 名 | 家族の健康，経済的問題，家族の心の問題，子どもの運動発達，子どもの教育，子どもの健康，子どもの心の問題，子どもの昼ご飯を準備すること，ゲームやテレビ視聴 |
| 2 | 山下雅子 2021 | 就学前の乳幼児をもつ保護者 33 名 | 子どもの成長，子どもとの関わり方，感染，叱ることの増加，生活リズムの変化，保護者の健康 |
| 3 | 中囿桐代 2020 | 幼児から高校生の子どもの母親 197 名 | 子どもの精神的ストレス，子どもの運動不足，子どもの生活リズムの乱れ，ゲーム，学力の低下，子どもの心の状態，子どもの昼食，授業の遅れ |
| 4 | 小湊真衣 2020 | 保育所もしくは幼稚園を利用している保護者 41 名 | 子どもの発達，子どもの学習能力，子どもの体力 |

**Table 2**　Research categories

| カテゴリー | コロナ禍におけるシングルマザーの不安 |
|---|---|
| 貧困に陥る | 経済的問題 |
| 家族の健康 | 家族の健康，家族の心の問題，感染，保護者の健康 |
| 子どもの成長 | 子どもの運動発達，子どもの健康，子どもの成長，ゲームやテレビ視聴，生活リズムの変化，子どもの運動不足，子どもの生活リズムの乱れ，子どもの昼食，子どもの発達，子どもの体力 |
| 子どもへの関わり方 | 子どもの昼ご飯を準備すること，子どもとの関わり方，叱ることの増加，保護者の忙しさ |
| 子どもの精神的ストレス | 子どもの心の問題，子どもの精神的ストレス，子どもの心の状態 |
| 子どもの学習能力 | 子どもの教育，学力の低下，授業の遅れ，ネット環境の悪さ，学校との関係，家庭での学習指導，子どもの学習能力 |

「貧困に陥る」については，コロナ禍による就労状況の悪化が想像できる。『ひとり親世帯調査』[6]からひとり親世帯の収入状況を見ると，母子世帯の母自身の平均年間収入は243万円となっている。こうした状況で，当然ながら子どもの貧困率にも現れている。『国民生活基礎調査』[7]によれば，全体としての子どもの貧困率は13.5%であり，約７人に１人の子どもが貧困状態にあるとされているが，ひとり親世帯の貧困率から見ると48.1%と非常に高い数字となっている。日本で就労することが貧困を緩和しないという事実が明白であり，ひとり親世帯は『働く貧困者』の典型的な世帯類型となっている[8]ことから，コロナ禍において更なる困難を体験したことが想像できる。

「家族の健康」については，悩みや困った内容として，感染した場合の対応が選ばれた背景には，感染症流行初期であったこともあり，感染症自体に関する情報が不足している段階であったことから感染への不安があったということが考えられる。その一方で，このことに加えて，感染症対策の一環として，マスクの着用や他者の距離をとること（ソーシャルディスタンス），密接・密閉・密集を避けるなどの生活を取り巻く状況も変化することで親子共にストレス状況下にあり，その影響により，これまで可能だった遊び方や生活習慣が変わり，それを子どもにどう伝えると実行できるのかなど，養育態度の変化も悩みや困りごとが増えた部分につながっていた[9]とされている。

「子どもの成長」については，持久力や瞬発力といった「基礎体力」について心配する意見が見られた。それに対し，身長や体重といった「身体的な発達」を心配する意見は少なかった。外に出られなくなったことによる子どもの体力の低下を特に心配し，不安に感じている可能性が指摘されていた[10]。

「子どもへの関わり方」について，外出自粛機関が他の地域に比べて長かった東京都の保護者は，子どもとの関わり方により変化を感じており，その変化は子どもとの密な時間が増えたという量的なものが挙げられた。また，地域によって大きな差は見られなかったが，子どもの時間が増えたことをポジティブに捉え積極的に関わろうとする側面と，子どもと密になったからこそ生じた自分一人の時間が減ったことなどへのネガティブな側面の両面性があることが示唆されている[11]。

「子どもの精神的ストレス」については，中囿[12]の調査によって，幼児期から高校まで全ての子どもの年齢において子どもの精神的ストレスについて不安視する結果が見られた。他の研究においても子どもの精神面での不安定さについて心配する意見が出されていた。

「子どもの学習能力」[13]については，感染初期の自宅自粛期間中の学習環境において，不安に感じている様子が見られた。ただ，親が自宅で仕事をする中で学習を見たり，オンラインでの講座を利用するなど親に余裕がある場合には自宅においても学習が行える様子がうかがえたが，時間や経済的な問題によりそれらを用いることができない家庭においては，十分ではない様子がうかがえた。

### ２）コロナ禍の不安

感染症流行期間前後での子育ての悩みの量的な変化には大きな変化が見られない。感染流行期前から子どもと過ごす時間が長い保護者にとっては，緊急実態宣言による休園が子育ての悩みが大きな影響として認識されなかったことが伺われた。つまり，子育ての悩みは，保育所や幼稚園の休園による子どもと過ごす時間が増えたことによる影響が大きく，子どもの成長や日頃の関わり方による悩みであると考えられた[14]。子どもも日中預けざるを得ないシングルマザーには大きな影響がでたと考えられる。

## Ⅳ．考察

### １．シングルマザーの現状

コロナ禍という危機的な状況において母子家庭の抱える困難と支援における問題がより強調された。経済的な状況はより悪化し，それに伴って子育てにも支障が出ている[15]。一般の子育て家庭においても，多くの不安が指摘されており，普段から困難をもつ母子家庭においてはその問題が更に大きくなったと考えられる。

### ２．国からの支援策の課題

保護者の不安に応えるように，国からの支援が非常に大切だと考えられる。国は経済的な支援策について，特別定額給付金や子育て世帯への臨時特別給付金，生活福祉資金貸付制度などの活用により，支援をおこなってきた。しかしながら，生活や子育てに関する支援については十分ではなく，子どもを預ける場所が保育所の休園などにより，なくなり，シ

ングルマザーが自ら仕事を休んで子どものケアをしなければならない状況になった。保育所などと異なり，家庭内でできることは限られており，運動や友達同士での遊びなどはできず，そうしたことがシングルマザーの不安に繋がっている。こうした子育てに課題を持っているシングルマザーは多く存在することが予想される。

## Ⅴ．結語

本研究では，コロナ禍によるシングルマザーの不安やそれに対して国が実施する支援策の考察をめぐって書かれた。コロナ禍で，保育園・幼稚園や学校が一斎休園・休校になった。そのため，保護者たちは家族の健康だけでなく，子どもの発達，成長や関わり方なども心配になっている。その中では，シングルマザーが元々仕事を集中していて，子どもを預ける場所がなくなり，生活は更に窮屈になってくる。

また，子ども食堂などの子どもの預かり機能が持つ施設の休業も保護者たちにショックを与える。今後はそれに対する施策の検討が今後必要だと考えている。

## ＜注＞

[1] 国立感染症研究所：東京都での新型コロナウイルス感染症（COVID－19）の流行（2020 年１～５月），2020，41，146-147

[2] 厚生労働省：国内の発生状況，2022

[3] 文部科学省：新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について，2020

[4] 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課：ひとり親家庭の現状と支援施策について～その１～，2020

[5] 湯澤直美：コロナ禍におけるシングルマザーの労働と子育て，2021，26，28-34　学術の動向

[6] 厚生労働省：平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査結果報告，16

[7] 厚生労働省：「2019 年国民生活基礎調査の状況」，Ⅱ

[8] 今村篤史：ひとり親家庭への支援をめぐる言説の現在 ―ひとり親世帯臨時特別給付金を中心とした国会審議の分析から，地域総合研究，22，45-69（2021）

[9] 山下雅子，中山政弘：「新型コロナ感染流行期」における乳幼児を持つ保護者の悩みと支援ニーズの一考察，福岡県立大学心理臨床研究，13，25-31（2021）

[10] 小湊真衣：新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛状況下における保護者の子育て不安 ―非常事態時における子育て支援のあり方の検討，帝京科学大学総合教育センター紀要，3，71-88（2020）

[11] 亀田佐知子，井戸ゆかり，園田巌，横山草介，早坂信哉：新型コロナウイルス感染症拡大における学童期の子どもをもつ家庭の現状課題，日本健康開発雑誌，41，13-25（2020）

[12] 中囿桐代：コロナウイルス感染拡大による臨時休校がシングルマザーに与える影響：札幌市母子寡婦福祉連合会・会員のアンケート報告，季刊北海学園大学経済論集，68（1），1-18（2020）

[13] 小湊真衣：新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛状況下における保護者の子育て不安 ―非常事態時における子育て支援のあり方の検討，帝京科学大学総合教育センター紀要，3，71-88（2020）

[14] 内閣府：新型コロナウイルス感染症により保育所等が臨時休園等した場合の「利用者負担額」及び「子育てのための施設等利用給付」等の取扱いについて，2021

[15] 今村篤史：ひとり親家庭への支援をめぐる言説の現在 ―ひとり親世帯臨時特別給付金を中心とした国会審議の分析から，地域総合研究，22，45-69（2021）